

科」などは1地域でのみ不足であった。

表3- (8) -4 定員に対する不足医師数割合（診療科別に見た地域ごとの構成比）

	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	合計
内科	42.0%	7.0%	30.0%	21.0%	100.0%
神経内科(神経科)				100.0%	100.0%
小児科		50.0%		50.0%	100.0%
外科				100.0%	100.0%
整形外科	85.7%	14.3%			100.0%
脳神経外科		100.0%			100.0%
小児外科	100.0%				100.0%
皮膚科			50.0%	50.0%	100.0%
泌尿器科		50.0%		50.0%	100.0%
産婦人科	23.8%	47.6%		28.6%	100.0%
眼科	100.0%				100.0%
耳鼻咽喉科	25.0%		25.0%	50.0%	100.0%
リハビリテーション科		50.0%		50.0%	100.0%
放射線科	50.0%		25.0%	25.0%	100.0%
麻酔科				100.0%	100.0%
人工透析科		100.0%			100.0%
合計	36.4%	18.2%	14.7%	30.7%	100.0%

### (3) ①②以外の理由による要求医師数

#### 診療科別要求医師数

全体の要求医師数は110人であった。これを診療科別に見ると、「内科」が35人で全体の31.9%と最も多く、次いで「整形外科」14人、「外科」12人、「麻酔科」「産婦人科」がともに6人、「小児科」が5人、「循環器科」「耳鼻咽喉科」「消化器科・胃腸科」がともに4人、「脳神経外科」「眼科」がともに3名、「皮膚科」「呼吸器科」「放射線科」などがともに2人必要との結果であった。また要求医師数が1人の診療科は、「神経内科(神経科)」、「泌尿器科」、「婦人科」、「精神科」及び「病理」であった。

#### 重要度別要求医師数

「医療法に基づく標準医師数に対する不足数」及び「診療科別定員に対する不足医師数」を除き、各医療施設において今後要求を考えている医師数を重要度別に調査した。重要度の区分は、「A：1人体制の解消等現状の改善のためにできるだけ早期に必要」、「B：病院機能の充実、医療レベルの向上等のために将来的には必要」、「C：その他」とした。

要求医師数110人のうち、重要度[A]が43人(39.1%)、[B]が33人(30.0%)、[C]が3人(2.7%)、重要度区分記載なし31人であった。

診療科別に見ると、「内科」は[B]が10人で、[A]の7人を上回り、どちらかと云えば將

来的に充足させたい診療科の傾向が見られる。レベル[A]の要求医師数では、「整形外科」が6人と「内科」に次いで多く、「外科」が5人、「循環器科」「小児科」「麻酔科」「消化器科・胃腸科」がともに3人などであった。特に、「循環器科」「消化器科・胃腸科」の各3人は要求医師数のすべてがレベル[A]であり、当該診療科医師の確保が急務となっている現状が認められる。また、「外科」(5人)、「麻酔科」(3人)もレベル[A]が多く、早期の充足を求めているものと考えられる。

特にレベル[A]で要求している主な理由は、「常勤医1人体制による過重労働の解消」「開業、退職、引き揚げ等に伴う常勤医ゼロの解消」など切実な現状打開の必要性を訴えるものが多かった。

地域別では、村山地域が46人、最上地域が10人、置賜地域が28人、庄内地域が25人であった。これを、重要度別に見ると、村山地域ではレベル[A]が14人(30.4%)、[B]が22人(47.8%)、[C]が2人(4.3%)と[B]が[A]を大きく上回った。最上地域では、[A]はゼロ、[B]が5人であった。置賜地域では、[A]が23人(82.1%)、[B]が1人(3.6%)と[A]が際立って多かった。庄内地域では、[A]が6人、[B]が5人、[C]が1人と要求医師数25人のうち半数に区分記載がなく、重要度の実態が十分把握できなかった。

表3-(8)-5 重要度別要求医師数(地域別・診療科別)

	村山地域			最上地域			置賜地域			庄内地域			合計							
	要求医師数	A	B	C	要求医師数	A	B	C	要求医師数	A	B	C	要求医師数	A	B	C				
内科	14	3	6	1	6		2		5	3			10	1	2		35	7	10	1
精神科	1		1														1		1	
神経内科(神経科)									1	1							1		1	
呼吸器科	1	1							1	1							2	2		
消化器科・胃腸科									2	2			2	1			4	3		
循環器科									2	2			2	1			4	3		
小児科	3	2	1						2	1							5	3	1	
外科	3	2	1		3	1			3	2			3	1			12	5	2	
整形外科	8	3	3		1	1			2	2			3	1	1		14	6	5	
脳神経外科	2		1						1	1							3	1	1	
皮膚科	1		1										1	1			2	1	1	
泌尿器科									1	1							1	1		
産婦人科	2	1	1						1	1			3		1	1	6	2	2	1
婦人科	1		1		1	1											2		2	
眼科	2		2						1	1							3	1	2	
耳鼻咽喉科	2		2						1	1			1		1		4	1	3	

放射線科	1		1					1	1						2	1	1		
病理	1	1													1	1			
麻酔科	4	1	1	1				2	2						6	3	1	1	
内分泌代謝内科								2	2						2	2			
合計	46	14	22	2	11	5		28	23	1		25	6	5	1	110	43	33	3

※「要求医師数」に記載があるが、「重要度別」に記載がない回答施設があるため、要求医師数と内訳は必ずしも一致しない。

表 3- (8) -6 要求医師数（地域別に見た診療科ごとの構成比）

	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	合計
内科	30.4%	57.7%	17.9%	39.7%	31.9%
精神科	2.2%				0.9%
神経内科(神経科)			3.6%		0.9%
呼吸器科	2.2%		3.6%		1.8%
消化器科・胃腸科			7.1%	7.9%	3.6%
循環器科			7.1%	7.9%	3.6%
小児科	6.5%		7.1%		4.6%
外科	6.5%	28.8%	10.7%	11.9%	10.9%
整形外科	17.4%	9.6%	7.1%	11.9%	12.8%
脳神経外科	4.3%		3.6%		2.7%
皮膚科	2.2%			4.0%	1.8%
泌尿器科			3.6%		0.9%
産婦人科	4.3%		3.6%	12.7%	5.7%
婦人科	2.2%	3.8%			1.3%
眼科	4.3%		3.6%		2.7%
耳鼻咽喉科	4.3%		3.6%	4.0%	3.6%
放射線科	2.2%		3.6%		1.8%
病理	2.2%				0.9%
麻酔科	8.7%		7.1%		5.5%
内分泌代謝内科			7.1%		1.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 3- (8) -7 要求医師数（診療科別に見た地域ごとの構成比）

	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	合計
内科	40.0%	17.1%	14.3%	28.6%	100.0%
精神科	100.0%				100.0%
神経内科(神経科)			100.0%		100.0%
呼吸器科	50.0%		50.0%		100.0%
消化器科・胃腸科			50.0%	50.0%	100.0%

循環器科			50.0%	50.0%	100.0%
小児科	60.0%		40.0%		100.0%
整形外科	57.1%	7.1%	14.3%	21.4%	100.0%
脳神経外科	66.7%		33.3%		100.0%
皮膚科	50.0%			50.0%	100.0%
泌尿器科			100.0%		100.0%
産婦人科	32.3%		16.1%	51.6%	100.0%
婦人科	71.4%	28.6%			100.0%
眼科	66.7%		33.3%		100.0%
耳鼻咽喉科	50.0%		25.0%	25.0%	100.0%
放射線科	50.0%		50.0%		100.0%
病理	100.0%				100.0%
麻酔科	66.7%		33.3%		100.0%
内分泌代謝内科			100.0%		100.0%
合計	42.0%	9.5%	25.5%	23.0%	100.0%

## (9) 離職医師数及び離職理由

### 年度別離職医師数の推移

全体では、平成 14 年度が 273 人に対し、平成 15 年度が 284 人で前年度に比べ 11 人増加した。参考までに、平成 10 年度の離職医師数は 142 人であった。

地域別では、村山地域は平成 14 年度 134 人が平成 15 年度 138 人で 4 人増、最上地域は 12 人から 17 人で 5 人増、置賜地域は 57 人から 58 人で 1 人増、庄内地域は 70 人から 71 人で 1 人増となっており、すべての地域で離職医師が増加した。

### 離職理由

平成 15 年度離職者数 284 人についてその離職理由を見ると、「医局人事により他病院へ」が 161 人 (56.7%) と最も多く、次いで「大学医局へ」が 73 人 (25.7%)、「医局人事以外の理由により他病院へ」が 20 人 (7.0%)、「開業」が 19 人 (6.7%)、「退職」が 7 人 (2.5%)、「その他」が 4 人 (1.4%) であった。

参考までに平成 10 年度の離職理由別比率を見ると、「医局人事により他病院へ」が 54.2% と最も多く、次いで「大学医局へ」が 28.2%、「開業」が 9.9%、「退職」が 2.8%、

「医局人事以外の理由により他病院へ」が 2.1% などであった。「開業」による離職理由が 3 番目で、その比率も平成 15 年度より 3.1 ポイント上回っていることが特徴的である。

### 平成 15 年度及び平成 14 年度増減比較

#### <全体>

平成 15 年度の離職理由ごとの離職者数を前年度と比較すると、「開業」が平成 15 年

度は19人で前年度と変化はなかった。「大学医局へ」は73人で9人増、「退職」は7人で9人減、「医局人事により他病院へ」は161人で12人増、「医局人事以外の理由により他病院へ」は20人で3人増であった。「医局人事により他病院へ」「大学医局へ」の理由による離職者数の増が全体の増の主な要因となっている。

#### <地域別>

- ・ 対平成14年度離職者数を地域合計で見ると、村山地域が4人、最上地域が5人、置賜地域及び庄内地域がともに1人増と全地域で前年度に比べ増加した。
- ・ 村山地域：「開業」が平成15年度は10人で前年度に比べ2人減、「大学医局へ」は29人で6人増、「退職」は5人で6人減、「医局人事により他病院へ」は85人で5人増、「医局人事以外の理由により他病院へ」は9人で1人増であった。
- ・ 最上地域：「開業」が1人で1人増、「大学医局へ」は9人で4人増、「退職」は0人で増減なし、「医局人事により他病院へ」は7人で1人増、「医局人事以外の理由により他病院へ」は0人で増減なしであった。
- ・ 置賜地域：「開業」が6人で4人増、「大学医局へ」は26人で10人増、「退職」は1人で1人減、「医局人事により他病院へ」は22人で7人減、「医局人事以外の理由により他病院へ」は2人で1人減であった。
- ・ 庄内地域：「開業」が2人で3人減、「大学医局へ」は9人で11人減、「退職」は1人で2人減、「医局人事により他病院へ」は47人で13人増、「医局人事以外の理由により他病院へ」は9人で3人増であった。

表3- (9) 離職医師及び離職理由（地域別）

			村山 地域	最上 地域	置賜 地域	庄内 地域	合計	構成比
回答施設数			16	4	8	10	38	
平成14年度離職医師数			134	12	57	70	273	100.0%
内訳	A:開業	施設数	6		1	4	11	
		人数	12		2	5	19	7.0%
	B:大学医局へ	施設数	8	1	4	4	17	
		人数	23	5	16	20	64	23.4%
	C:退職	施設数	4		2	2	8	
		人数	11		2	3	16	5.9%
	D:医局人事により他病院へ	施設数	10	2	4	6	22	
		人数	80	6	29	34	149	54.6%
	E:D以外の理由により他病院へ	施設数	3		2	3	8	
		人数	8		3	6	17	6.2%
	F:その他	施設数		1	2	2	5	
		人数		1	5	2	8	2.9%
平成15年度離職医師数			138	17	58	71	284	100.0%

		対H14	4	5	1	1	11	
内訳	A:開業	施設数	6	1	2	2	11	6.7%
		人数	10	1	6	2	19	
		対H14	△ 2	1	4	△ 3	0	
	B:大学医局へ	施設数	8	2	4	5	19	25.7%
		人数	29	9	26	9	73	
		対H14	6	4	10	△ 11	9	
内訳	C:退職	施設数	4		1	1	6	2.5%
		人数	5		1	1	7	
		対H14	△ 6	0	△ 1	△ 2	△ 9	
	D:医局人事により他病院へ	施設数	12	3	4	7	26	56.7%
		人数	85	7	22	47	161	
		対H14	5	1	△ 7	13	12	
内訳	E:D以外の理由により他病院へ	施設数	5		1	4	10	7.0%
		人数	9		2	9	20	
		対H14	1	0	△ 1	3	3	
	F:その他	施設数			1	3	4	1.4%
		人数			1	3	4	
		対H14	0	△ 1	△ 4	1	△ 4	
	平成 10 年度離職医師数		99	3	18	22	142	100.0%
内訳	A:開業	施設数	4		1	1	6	9.9%
		人数	8		1	5	14	
	B:大学医局へ	施設数	5		2	1	8	28.2%
		人数	28		4	8	40	
	C:退職	施設数	2		1		3	2.8%
		人数	2		2		4	
内訳	D:医局人事により他病院へ	施設数	8	2	3	2	15	54.2%
		人数	58	3	8	8	77	
	E:D以外の理由により他病院へ	施設数	1			1	2	2.1%
		人数	2			1	3	
	F:その他	施設数	1		1		2	2.8%
		人数	1		3		4	

#### (10) 常勤医師一人当たり年間給与額（平成 15 年度実績：千円）

常勤医師一人当たり年間給与額の施設分布を見ると、全体では「15,000～20,000 千円」が 27 施設 (64.3%) と最も多く、次いで「10,000～15,000 千円」が 7 施設 (16.7%)、「20,000 千円～」が 6 施設 (14.3%) であった。

地域別では、村山地域、置賜地域、庄内地域は「15,000～20,000 千円」が最も多く、それぞれの割合は 60.0%、77.8%、88.9% であった。最上地域は「20,000 千円～」が 4

施設のうち3施設と最も多く、医師確保において給与面で配慮していることがうかがえる。

表3- (10) 常勤医師一人当たり年間給与額分布（地域別）

(単位：千円)

	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
回答施設数	20	比率	4	比率	9	比率	9	比率	42	比率
5,000千円未満										
5,000千円以上 10,000千円未満	2	10.0%							2	4.8%
10,000千円以上 15,000千円未満	4	20.0%	1	25.0%	1	11.1%	1	11.1%	7	16.7%
15,000千円以上 20,000千円未満	12	60.0%			7	77.8%	8	88.9%	27	64.3%
20,000千円以上	2	10.0%	3	75.0%	1	11.1%			6	14.3%

(注)「比率」は各区分の施設数を全回答施設数にて除したもの。

#### (11) 非常勤医師一人当たり平均報酬額(平成15年度実績:千円)

非常勤医師一人当たり平均報酬額の施設分布を見ると、全体では「500千円未満」が最も多く、11施設(34.4%)、次いで「1,500~2,000千円」が7施設(21.9%)であった。この結果を見ると、フルタイムより半日等の勤務形態が多いことがうかがえる。

地域別では、村山地域は「1,500~2,000千円」(35.7%)、最上地域は「2,000~2,500千円」(66.7%)、置賜地域及び庄内地域は「500千円未満」(50.0%、57.1%)が最も多く、地域あるいは医療施設の応援医師必要性等の需給事情が反映しているものと推察される。

表3- (11) 常勤医師一人当たり年間報酬額分布（地域別）

(単位：千円)

	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
回答施設数	14	比率	3	比率	8	比率	7	比率	32	比率
500千円未満	3	21.4%			4	50.0%	4	57.1%	11	34.4%
500千円以上 1,000千円未満	3	21.4%							3	9.4%
1,000千円以上 1,500千円未満	1	7.1%	1	33.3%	1	12.5%			3	9.4%
1,500千円以上 2,000千円未満	5	35.7%			1	12.5%	1	14.3%	7	21.9%
2,000千円以上 2,500千円未満			2	66.7%	1	12.5%			3	9.4%
2,500千円以上 3,000千円未満	1	7.1%							1	3.1%
3,000千円以上	1	7.1%			1	12.5%	2	28.6%	4	12.5%

(注)「比率」は各区分の施設数を全回答施設数にて除したもの。

#### (12) 常勤医師一人当たり年間平均手当額(平成15年度実績:千円)

時間外勤務手当、特殊勤務手当、宿日直手当等の医師に支給されている手当額の施設分布を見ると、全体では、「8,000~9,000千円」「9,000~10,000千円」「10,000~11,000

千円」がともに4施設(10.3%)とこの手当額層で全体の3割を占めている。また、「12,000千円以上」が8施設(20.5%)で4分の1を占めている。一方、「5,000千円未満」が11施設(28.2%)と約3割にのぼり、「5,000千円未満」「5,000~12,000千円」「12,000千円以上」の三極化がうかがえる。

表3-(12) 常勤医師一人当たり年間平均手当額分布(地域別)

(単位:千円)

	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
回答施設数	19	比率	4	比率	9	比率	7	比率	39	比率
1,000千円未満	2	10.5%			1	11.1%			3	7.7%
1,000千円以上 2,000千円未満	2	10.5%							2	5.1%
2,000千円以上 3,000千円未満	2	10.5%					1	14.3%	3	7.7%
3,000千円以上 4,000千円未満	2	10.5%							2	5.1%
4,000千円以上 5,000千円未満	1	5.3%							1	2.6%
5,000千円以上 6,000千円未満										
6,000千円以上 7,000千円未満	1	5.3%					1	14.3%	2	5.1%
7,000千円以上 8,000千円未満	1	5.3%			1	11.1%	1	14.3%	3	7.7%
8,000千円以上 9,000千円未満	1	5.3%	1	25.0%	1	11.1%	1	14.3%	4	10.3%
9,000千円以上 10,000千円未満	2	10.5%					2	28.6%	4	10.3%
10,000千円以上 11,000千円未満	2	10.5%			2	22.2%			4	10.3%
11,000千円以上 12,000千円未満	1	5.3%			2	22.2%			3	7.7%
12,000千円以上 13,000千円未満	1	5.3%			1	11.1%			2	5.1%
13,000千円以上 14,000千円未満			1	25.0%	1	11.1%			2	5.1%
14,000千円以上 15,000千円未満			1	25.0%			1	14.3%	2	5.1%
15,000千円以上	1	5.3%	1	25.0%					2	5.1%

(注)「比率」は各区分の施設数を全回答施設数にて除したもの。

### (13) 常勤医師一人当たり研究費(平成15年度実績:千円)

全体では、「250千円未満」が12施設(42.9%)と最も多く、次いで「250~500千円」が8施設(28.6%)で「500千円未満」で20施設(71.5%)と7割以上にのぼり、医師に対する研究助成の厳しい現状がうかがえる。

表3-(13) 常勤医師一人当たり研究費分布(地域別)

(単位:千円)

	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
回答施設数	11	比率	3	比率	9	比率	5	比率	28	比率
250千円未満	4	36.4%	1	33.3%	4	44.4%	3	60.0%	12	42.9%
250千円以上 500千円未満	2	18.2%			5	55.6%	1	20.0%	8	28.6%
500千円以上 750千円未満	3	27.3%							3	10.7%

750千円以上 1,000千円未満									
1,000千円以上 1,250千円未満									
1,250千円以上 1,500千円未満			1	33.3%		1	20.0%	2	7.1%
1,500千円以上	2	18.2%	1	33.3%				3	10.7%

(注)「比率」は各区分の施設数を全回答施設数にて除したもの。

#### 4 患者数について

##### (1) 診療科別一日平均入院患者数(平成15年度実績)

###### 全体

「内科」が2,696.3人と最も多く、全入院患者数8,157.8人の33.1%を占めている。次いで、「外科」が1,109.5人(13.6%)、「整形外科」が1,041.1人(12.8%)、「脳神経外科」が539.8人(6.6%)、「小児科」が460.6人(5.6%)、「産婦人科」が434.9人(5.3%)などとなっている。

###### 地域別の特徴

- ・ 村山地域：「内科」が1,352.0人(地域計4,225.5人の32.0%)と最も多く、次いで、「整形外科」が605.6人(14.3%)、「外科」が524.9人(12.4%)、「脳神経外科」が273.5人(6.5%)、「産婦人科」が264.7人(6.3%)、「小児科」が244.5人(5.8%)などとなっている。同地域は「産婦人科」の割合が6.5%と全体平均(5.3%)を上回っている。
- ・ 最上地域：「内科」が255.5人(地域計503.6人の50.7%)と入院患者の半分以上が内科となっており、全体平均の33.1%を大きく上回っている。次いで、「整形外科」が90.2人(17.9%)、「外科」が66.1人(13.1%)などとなっている。一方、「小児科」8.3人(1.6%)、「産婦人科」12.0人(2.4%)は全体平均(5.6%、5.3%)に比べ構成割合が低い。
- ・ 置賜地域：「内科」が445.9人(地域計1,587.6人の28.1%)と最も多く、次いで「外科」が173.2人(10.9%)、「整形外科」が161.7人(10.2%)などとなっている。同地域は「小児科」が地域計の9.7%を占め、全体平均(5.6%)を大きく上回っている。
- ・ 庄内地域：「内科」が643.3人(地域計1,841.1人の34.9%)と最も多く、次いで「外科」が345.4人(18.8%)、「整形外科」が183.6人(10.0%)となっている。同地域では、循環器科が2.9%と全体平均(1.6%)を大きく上回っている。

表4-(1)-1 一日平均入院患者数(地域別・診療科別)

回答施設数	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	21	割合	4	割合	9	割合	10	割合	44	割合
内科	1,352.0	32.0%	255.5	50.7%	445.9	28.1%	643.3	34.9%	2,696.6	33.1%
心療内科	0.2	0.0%							0.2	0.0%
精神科	54.8	1.3%			140.2	8.8%	11.6	0.6%	206.6	2.5%

神経内科(神経科)	151.0	3.6%			57.3	3.6%	39.5	2.1%	247.8	3.0%
呼吸器科	104.1	2.5%			46.5	2.9%	44.9	2.4%	195.5	2.4%
消化器科・胃腸科	89.2	2.1%			63.1	4.0%	130.3	7.1%	282.6	3.5%
循環器科	47.1	1.1%			25.5	1.6%	54.3	2.9%	126.9	1.6%
アレルギー科										
リウマチ科										
小児科	244.5	5.8%	8.3	1.6%	153.8	9.7%	54.0	2.9%	460.6	5.6%
外科	524.9	12.4%	66.1	13.1%	173.2	10.9%	345.4	18.8%	1,109.5	13.6%
整形外科	605.6	14.3%	90.2	17.9%	161.7	10.2%	183.6	10.0%	1,041.1	12.8%
形成外科	13.4	0.3%			2.1	0.1%	15.6	0.8%	31.1	0.4%
気管食道科										
脳神経外科	273.5	6.5%	37.5	7.4%	111.9	7.0%	116.9	6.3%	539.8	6.6%
呼吸器外科	12.4	0.3%					7.0	0.4%	19.4	0.2%
心臓血管外科	41.2	1.0%			20.7	1.3%	3.0	0.2%	64.9	0.8%
小児外科							2.5	0.1%	2.5	0.0%
皮膚科	33.9	0.8%	5.2	1.0%	6.4	0.4%	10.8	0.6%	56.3	0.7%
泌尿器科	142.9	3.4%	16.4	3.3%	60.0	3.8%	47.3	2.6%	266.6	3.3%
産婦人科	264.7	6.3%	12.0	2.4%	71.1	4.5%	87.1	4.7%	434.9	5.3%
産科							23.4	1.3%	23.4	0.3%
婦人科					2.6	0.2%			2.6	0.0%
眼科	55.6	1.3%	2.5	0.5%	14.9	0.9%	15.4	0.8%	88.4	1.1%
耳鼻咽喉科	92.4	2.2%	9.7	1.9%	27.5	1.7%	38.4	2.1%	168.0	2.1%
リハビリテーション科	126.2	3.0%							126.2	1.5%
放射線科	4.2	0.1%							4.2	0.1%
病理										
麻酔科	0.9	0.0%			0.7	0.0%	0.2	0.0%	1.8	0.0%
こう門科										
歯科口腔外科	12.9	0.3%			2.5	0.2%	2.9	0.2%	18.3	0.2%
歯科	1.0	0.0%					1.2	0.1%	2.2	0.0%
矯正歯科										
合計	4,225.5	100.0%	503.6	100.0%	1,587.6	100.0%	1,841.1	100.0%	8,157.8	100.0%

(注)「割合」は、各項目の数値を、「合計」の数値で除したもの。

#### 医師（常勤）一人一日当たり入院患者数

＜全体＞－主な診療科－

患者数の多い診療科では、「リハビリテーション科」が21.0人、「内科」が12.3人、「脳神経外科」が12.0人、「整形外科」が11.0人などに対し、患者数の少ない診療科では、「皮膚科」が2.3人、「眼科」が2.5人、「形成外科」が3.5人などであった。

<地域別>

- ・ 地域計では、村山地域が 5.8 人と最も少なく、次いで庄内地域が 7.6 人、最上地域が 8.0 人、置賜地域が 8.3 人であった。
- ・ 内科：村山地域が 10.3 人、最上地域が 10.6 人に対し、庄内地域が 16.1 人、置賜地域が 17.8 人と各 2 地域がそれぞれ同水準の患者数となっている。
- ・ 神経内科（神経科）：置賜地域が 14.3 人、庄内地域が 13.2 人、村山地域が 8.4 人に対し、最上地域が 0.0 人となっている。
- ・ 小児科：最上地域が 4.2 人、庄内地域が 4.5 人、村山地域が 7.0 人に対し、置賜地域が 15.4 人で最上地域及び庄内地域の 3 倍以上となっている。
- ・ 外科：最上地域が 6.6 人、村山地域及び置賜地域がともに 6.9 人に対し、庄内地域が 8.0 人と他 3 地域に比べ多いが、際立った差異は見られなかった。
- ・ 整形外科：最上地域が 12.9 人、村山地域が 11.4 人、庄内地域が 10.2 人、置賜地域が 9.5 人と際立った差異は見られなかった。
- ・ 脳神経外科：村山地域が 9.4 人に対し、最上地域が 18.8 人、置賜地域が 16.0 人、庄内地域が 16.7 人で村山地域は他 3 地域の約半分となっている。
- ・ 皮膚科：最上地域が 2.6 人、村山地域及び置賜地域が 2.1 人に対し、庄内地域が 3.6 人と他 3 地域に比べやや多い。
- ・ 泌尿器科：村山地域が 5.5 人、庄内地域が 5.9 人に対し、最上地域が 8.2 人、置賜地域が 8.6 人とやや多くなっている。
- ・ 産婦人科：庄内地域が 8.7 人、村山地域が 8.3 人、置賜地域が 7.9 人に対し、最上地域が 12.0 人と比較的多くなっている。
- ・ 眼科：最上地域が 1.3 人と最も少なく、村山地域及び庄内地域がともに 2.6 人、置賜地域が 2.1 人で、最上地域以外の 3 地域ではほとんど差がなかった。
- ・ 耳鼻咽喉科：村山地域が 4.4 人、置賜地域が 4.6 人、最上地域が 4.9 人に対し、庄内地域が 6.4 人と若干多くなっている。

表 4- (1) -2 医師一人当たり一日平均入院患者数（地域別・診療科別）

(単位:人)

	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	合計
内科	10.3	10.6	17.8	16.1	12.3
精神科	3.9		15.6	2.9	7.7
神経内科(神経科)	8.4	0.0	14.3	13.2	9.5
呼吸器科	8.0		7.8	15.0	8.9
消化器科・胃腸科	5.9		4.2	9.3	6.4
アレルギー科	0.0		0.0	0.0	0.0
小児科	7.0	4.2	15.4	4.5	7.8
外科	6.9	6.6	6.9	8.0	7.2
整形外科	11.4	12.9	9.5	10.2	11.0
形成外科	3.4		2.1	3.9	3.5

脳神経外科	9.4	18.8	16.0	16.7	12.0
呼吸器外科	6.2			1.8	3.2
心臓血管外科	4.6		6.9	0.6	3.8
小児外科	0.0			2.5	1.3
皮膚科	2.1	2.6	2.1	3.6	2.3
泌尿器科	5.5	8.2	8.6	5.9	6.2
産婦人科	8.3	12.0	7.9	8.7	8.4
産科				7.8	7.8
婦人科	0.0			0.0	1.3
眼科	2.6	1.3	2.1	2.6	2.5
耳鼻咽喉科	4.4	4.9	4.6	6.4	4.8
リハビリテーション科	25.2			0.0	21.0
放射線科	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1
麻酔科	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
病理	0.0		0.0	0.0	0.0
歯科口腔外科	1.1		0.8	1.0	1.0
歯科	0.2			0.6	0.3
合計	5.8	8.0	8.3	7.6	6.7

#### <病院種別>

- ・ 内科：「国立」が4.8人と最も少なく、「自治体」が10.0人、「公立・公的」が15.9人、「私的」が28.0人となっている。
- ・ 小児科：「私的」が1.2人と最も少なく、次いで「公立・公的」が4.6人、「自治体」が5.0人に対し、国立が18.9人と他病院種別の4倍弱から約15倍の入院患者数となっている。
- ・ 外科：「国立」が4.1人と最も少なく、「自治体」が6.4人、「公立・公的」が8.5人、「私的」が9.8人であった。
- ・ 脳神経外科：「国立」が3.3人と極めて少なく、「自治体」が11.4人、「公立・公的」が19.7人、「私的」が22.1人と国立以外はほぼ同水準であった。
- ・ 泌尿器科：「国立」が2.5人と最も少なく、次いで「公立・公的」が7.1人、「自治体」が7.2人、「私的」が7.6人で「国立」以外はほとんど差がなかった。
- ・ 産婦人科：「国立」が4.7人に対し、「公立・公的」が8.7人、「自治体」が9.2人、「私的」が9.9人で「国立」以外はほとんど差がなかった。
- ・ 眼科：「公立・公的」が1.6人と最も少なく、次いで「国立」が2.5人、「自治体」が2.8人、「私的」が2.7人であった。
- ・ 耳鼻咽喉科：「私的」が2.8人と最も少なく、次いで「国立」が3.0人、「公立・公的」が4.2人、「自治体」が6.2人であった。

表4-(1)-3 医師一人当たり一日平均入院患者数(病院種別・診療科別)

(単位:人)

	国立	公立・公的	自治体	私的	全体
内科	4.8	15.9	10.0	28.0	12.3
精神科	6.1	14.3	6.2		7.7
神経内科(神経科)	14.1	11.0	7.0	0.0	9.5
呼吸器科	17.4	0.0	16.0	3.9	8.9
消化器科・胃腸科	0.0	1.0	10.4	7.2	6.4
循環器科		0.0	5.5	6.6	4.1
小児科	18.9	4.6	5.0	1.2	7.8
外科	4.1	8.5	6.4	9.8	7.2
整形外科	4.1	10.8	10.6	21.4	11.0
形成外科		2.8	3.5		3.5
脳神経外科	3.3	19.7	11.4	22.1	12.0
呼吸器外科			3.2		3.2
心臓血管外科		6.2	2.5	3.0	3.8
小児外科			2.5	0.0	1.3
皮膚科	2.1	1.8	2.4	4.1	2.3
泌尿器科	2.5	7.1	7.2	7.6	6.2
産婦人科	4.7	8.7	9.2	9.9	8.4
産科			7.8		7.8
婦人科			2.6	0.0	1.3
眼科	2.5	1.6	2.8	2.7	2.5
耳鼻咽喉科	3.0	4.2	6.2	2.8	4.8
リハビリテーション科	22.6	12.1		28.5	21.0
放射線科	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1
麻酔科	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
病理	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
歯科口腔外科	1.3	0.8	1.2	0.4	1.0
歯科	0.0	0.0	0.7	0.0	0.3
合計	5.3	7.7	7.0	13.2	7.5

**医療施設への入院患者集中化の状況**

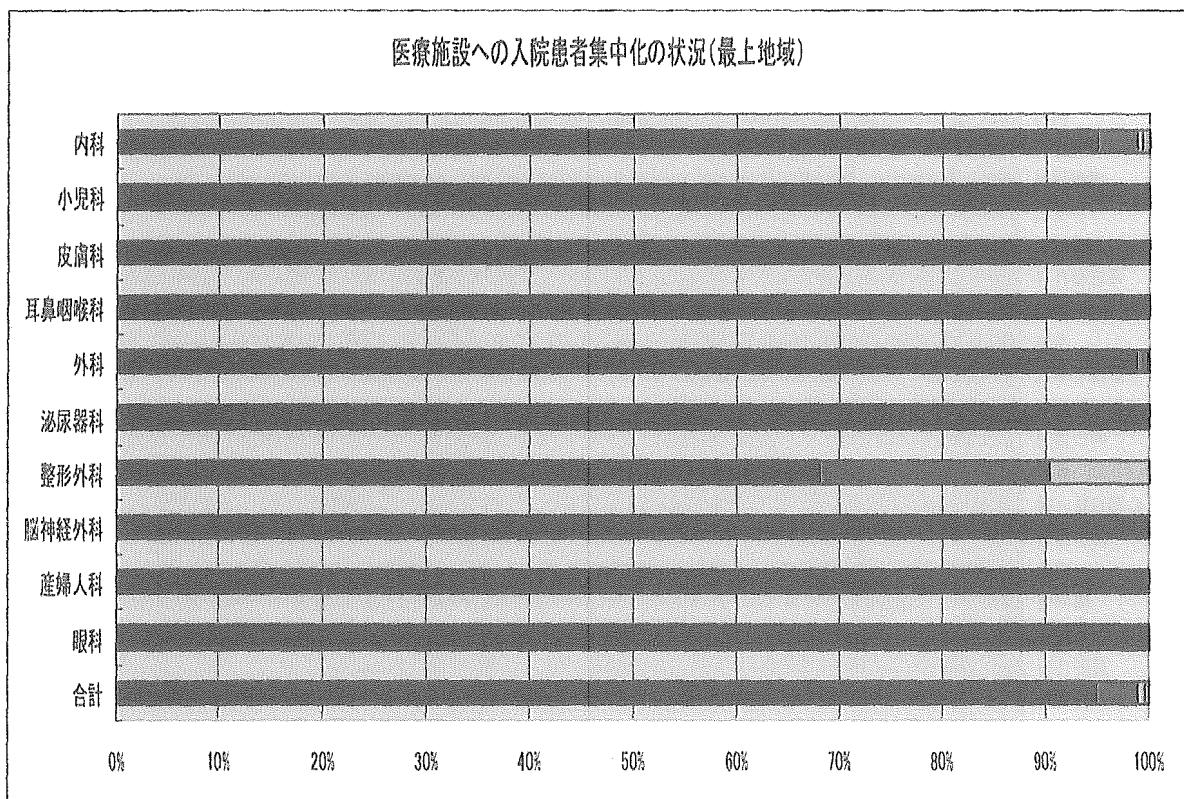
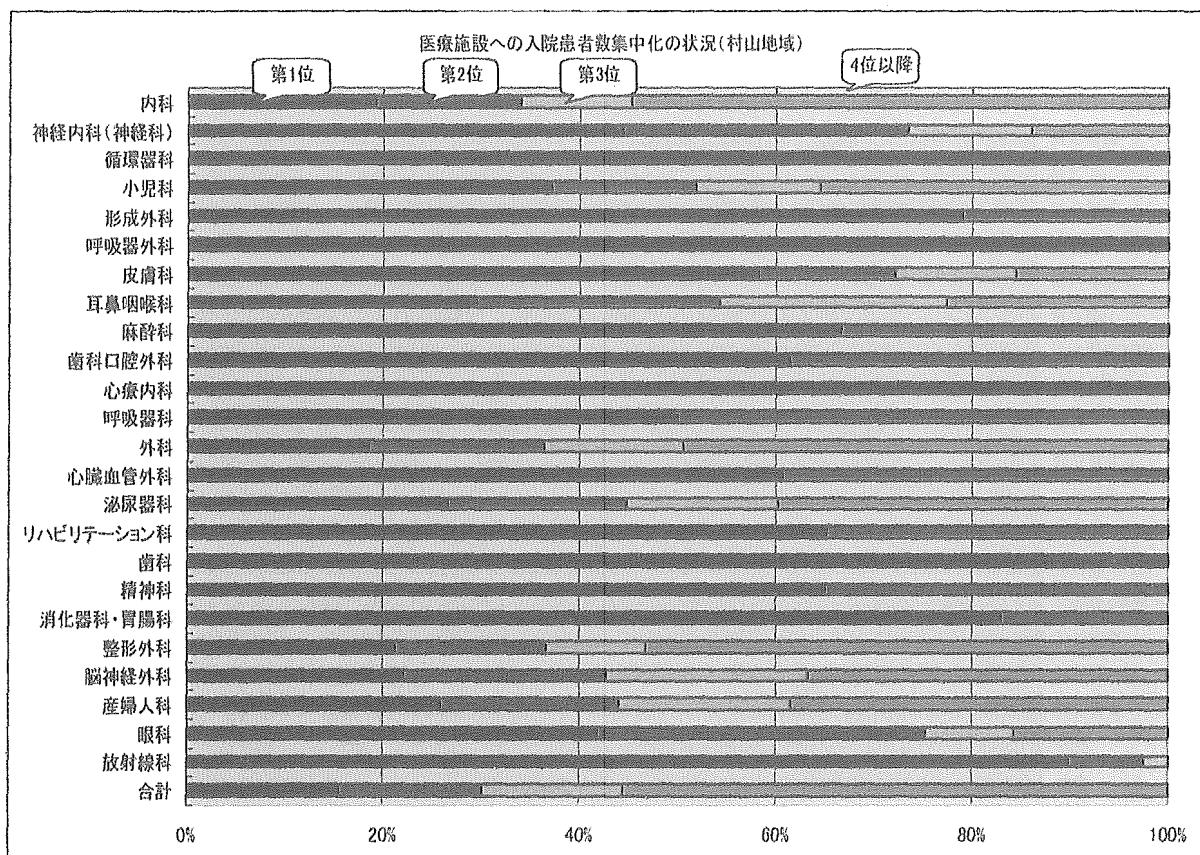
地域の診療科別入院患者数について、医療施設上位(3位まで)の占める比率を基に、医療圏における医療施設への集中化状況を比較した。

- ・ 村山地域：診療科合計では、上位1施設で全体の15.6%、上位2施設で30.2%と3割を占め、上位3施設では44.5%を占めている。診療科別では、1施設で地域全体をカバーしている診療科は、「循環器科」「呼吸器外科」「心療内科」「歯科」であった。

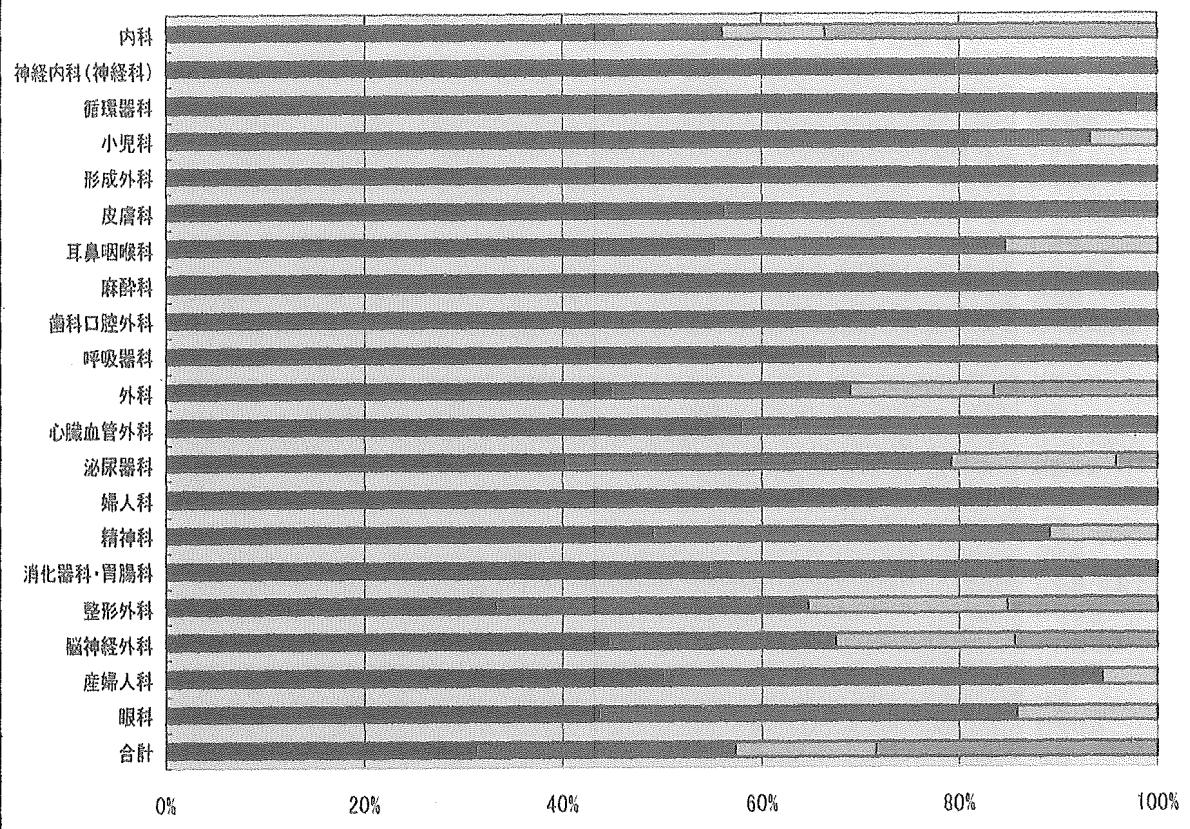
上位 2 施設で地域全体をカバーしているのは、「形成外科」「歯科口腔外科」「心臓血管外科」などであった。上位 3 施設で地域全体をカバーしているのは、「放射線科」であった。一方、上位 3 施設の比率が最も低い（各施設に分散されている）のは「内科」が 45.3%、「整形外科」が 46.8%、次いで「外科」が 50.6% などであった。

- ・ 最上地域：全体で 4 施設と母数が少ないこともあり、診療科合計では、上位 1 施設で地域全体の 95.0%、上位 2 施設で 99.0%、上位 3 施設で 99.6% に達している。診療科別では、「内科」「外科」「整形外科」を除き、すべて 1 施設で地域全体をカバーしている。
- ・ 置賜地域：合計では、上位 1 施設で全体の 31.3%、上位 2 施設で 57.5%、上位 3 施設で 71.6% と 7 割以上に達している。診療科別では、1 施設で地域全体をカバーしている診療科は、「形成外科」「歯科口腔外科」などであった。同じく上位 2 施設で地域全体をカバーしているのは、「神経内科（神経科）」「循環器科」「皮膚科」「心臓血管外科」「消化器科・胃腸科」などであった。同じく上位 3 施設で地域全体をカバーしているのは、「小児科」「耳鼻咽喉科」「精神科」「産婦人科」「眼科」などであった。一方、上位 3 施設の比率が最も低いのは「内科」が 65.5%、「外科」が 83.5%、「整形外科」が 85.0% などであった。
- ・ 庄内地域：合計では、上位 1 施設で全体の 27.3%、上位 2 施設で 50.9%、上位 3 施設で 69.4% と約 7 割を占めている。診療科別では、1 施設で地域全体をカバーしている診療科は、「心臓血管外科」「精神科」「小児外科」などであった。同じく上位 2 施設で地域全体をカバーしているのは、「神経内科（神経科）」「循環器科」「形成外科」「歯科口腔外科」「消化器科・胃腸科」であった。上位 3 施設で地域全体をカバーしているのは、「皮膚科」「耳鼻咽喉科」「産婦人科」「眼科」であった。一方、上位 3 施設の比率が最も低い（各施設に分散配置されている）のは「外科」で 56.5% などであった。

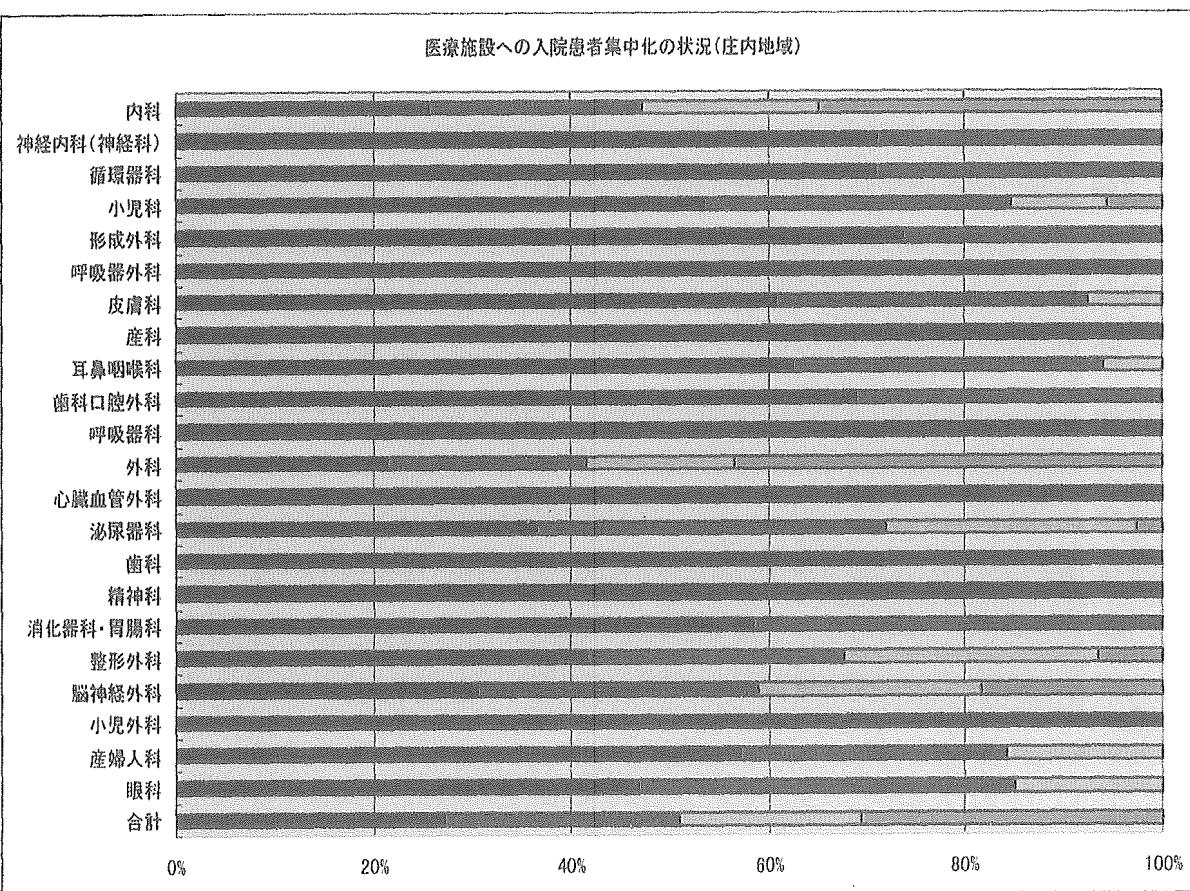
表4-(1)-4 医療施設への入院患者集中化の状況（地域別・診療科別）



医療施設への入院患者集中化の状況(置賜地域)



医療施設への入院患者集中化の状況(庄内地域)



### 医師一人当たり一日平均入院患者の医療施設分布

診療科別医師数及び同一日平均入院患者数から、医師一人が一日に入院治療に関わる患者数の施設分布を比較した。

一日平均入院患者数「5人未満」が最も多い施設数割合の主な診療科は、「形成外科」が5施設(100.0%)、「眼科」が14施設(93.3%)、「小児科」が12施設(60.0%)、「精神科」が5施設(55.6%)などであった。「5~10人」が最も多い診療科は、「外科」が18施設(50.0%)、「内科」が14施設(35.0%)などであった。「10~15人」は、「神経内科(神経科)」が5施設(41.7%)などであった。「15~20人」は、「脳神経外科」が6施設(40.0%)であった。また、「整形外科」は「5~10人」と「10~15人」がともに8施設(33.3%)、「産婦人科」は「5~10人」と「10~15人」がともに6施設(31.6%)であった。さらに「20人以上」を取り扱う医療施設が、「内科」が9施設(22.5%)、「整形外科」が3施設(12.5%)あったことが特徴的である。

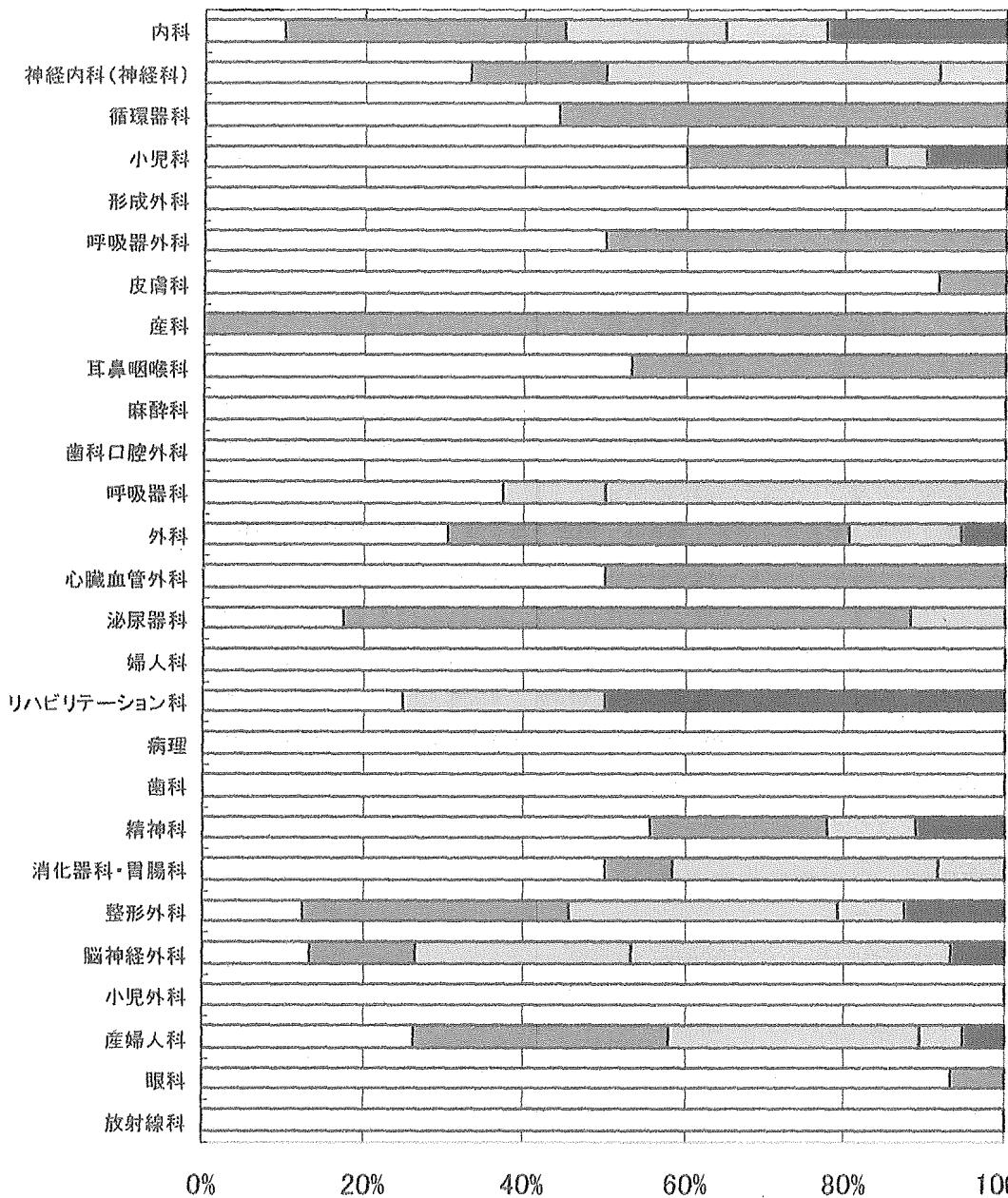
表4-(1)-(5) 医師一人当たり一日平均入院患者数の医療施設分布(診療科別)

	~5人		5~10人		10~15人		15~20人		20人以上		合計
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	
内科	4	10.0%	14	35.0%	8	20.0%	5	12.5%	9	22.5%	40
精神科	5	55.6%	2	22.2%			1	11.1%	1	11.1%	9
神経内科(神経科)	4	33.3%	2	16.7%	5	41.7%	1	8.3%			12
呼吸器科	3	37.5%			1	12.5%	4	50.0%			8
消化器科・胃腸科	6	50.0%	1	8.3%	4	33.3%	1	8.3%			12
循環器科	4	44.4%	5	55.6%							9
小児科	12	60.0%	5	25.0%	1	5.0%			2	10.0%	20
外科	11	30.6%	18	50.0%	5	13.9%			2	5.6%	36
整形外科	3	12.5%	8	33.3%	8	33.3%	2	8.3%	3	12.5%	24
形成外科	5	100.0%									5
脳神経外科	2	13.3%	2	13.3%	4	26.7%	6	40.0%	1	6.7%	15
呼吸器外科	1	50.0%	1	50.0%							2
心臓血管外科	3	50.0%	3	50.0%							6
小児外科	2	100.0%									2
皮膚科	11	91.7%	1	8.3%							12
泌尿器科	3	17.6%	12	70.6%	2	11.8%	0	0.0%	0	0.0%	17
産婦人科	5	26.3%	6	31.6%	6	31.6%	1	5.3%	1	5.3%	19
産科	0	0.0%	1	100.0%							1

婦人科	2	100.0%									2
眼科	14	93.3%	1	6.7%							15
耳鼻咽喉科	8	53.3%	7	46.7%							15
リハビリテーション科	1	25.0%			1	25.0%			2	50.0%	4
放射線科	15	100.0%									15
麻酔科	16	100.0%									16
病理	9	100.0%									9
歯科口腔外科	7	100.0%									7
歯科	5	100.0%									5

### 医師一人当たり一日平均入院患者数の医療施設分布

□～5人 ■5～10人 □10～15人 □15～20人 ■20人以上



### (2) 地域別入院患者延べ数

全体

地域ごとに見ると、全入院患者のうち村山地域が46.2%と半分近くを占めている。次いで置賜地域が21.5%、庄内地域が18.7%、最上地域が10.1%、県外が2.5%などになっている。

### 地域別割合

- ・ 村山地域：地域全体の入院患者のうち、自医療圏の患者が 91.7%を占めており、置賜地域が 2.9%、最上地域が 1.7%、庄内地域が 0.8%となっている。
- ・ 最上地域：地域全体の入院患者のうち、自医療圏の患者が 92.2%を占めており、村山地域が 2.5%、庄内地域が 0.2%、置賜地域が 0.0%となっている。
- ・ 置賜地域：地域全体の入院患者のうち、自医療圏の患者が 89.5%を占めているが、自診療圏の患者割合が最も低い。村山地域が 3.1%、庄内地域が 1.4%、最上地域が 0.7%となっている。
- ・ 庄内地域：地域全体の入院患者のうち、自医療圏の患者が 97.2%を占めており、4 地域の中で自診療圏の患者割合が最も高い。最上地域が 0.5%、村山地域が 0.3%、置賜地域が 0.1%となっている。

表 4- (2) 出身地域別入院患者延数

(単位:人)

患者出身 地域	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		県外		その他 住所不明		合計
	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	
村山地域	734,667	91.7%	13,359	1.7%	22,861	2.9%	6,117	0.8%	17,654	2.2%	6,322	0.8%	800,980
最上地域	3,935	2.5%	147,087	92.2%	31	0.0%	290	0.2%	1,177	0.7%	7,014	4.4%	159,534
置賜地域	11,148	3.1%	2,469	0.7%	325,523	89.5%	5,077	1.4%	17,900	4.9%	1,750	0.5%	363,867
庄内地域	853	0.3%	1,369	0.5%	167	0.1%	291,696	97.2%	4,172	1.4%	1,750	0.6%	300,007
合計	750,603		164,284		348,582		303,180		40,903		16,836		1,624,388

### (3) 診療科別一日平均外来患者数

#### 全体

「内科」が 5,861.7 人で最も多く、全体の外来患者数 19,239.9 人の 30.5%を占めている。次いで、「整形外科」が 2,463.3 人 (12.8%)、「外科」が 1,678.1 人 (8.7%)、「産婦人科」が 1,099.0 人 (5.7%)、「眼科」が 1,046.5 人 (5.4%)、「小児科」が 1,045.0 人 (5.4%)、「耳鼻咽喉科」が 996.7 人 (5.2%) などであった。

#### 地域別の特徴

- ・ 村山地域：「内科」が 2,868.3 人で地域計 9,022.1 人の 31.8%を占めている。次いで、「整形外科」が 1,209.9 人 (13.4%)、「外科」が 664.5 人 (7.4%)、「産婦人科」が 641.8 人 (7.1%) などとなっている。同地域では、産婦人科患者の割合が他地域 (2.5%~6.0%) に比べ高いのが特徴的である。
- ・ 最上地域：「内科」が 693.9 人 (地域計 1,702.0 人の 40.8%) と最も多く、次いで「整形外科」が 246.1 人 (14.5%)、「耳鼻咽喉科」が 178.7 人 (10.5%)、「外科」が 138.2 人 (8.1%)、「泌尿器科」が 90.9 人 (5.3%) などとなっている。同地域では、「耳鼻咽喉科」の外来患者数割合が 10.5%と、他地域の 2 倍以上となっている